

## 卒後 50 年記念同期会、7 組レポート！

50 年の時空を超えて

佐藤徹郎（7 組）

午前中の新幹線に乗ったが、香青軒に着いたのは定刻に近かった。久しぶりに E 子を訪い十代の恋に浮かれて話し込んだためか、タクシーにキーホルダーを忘れる。お店の人に手配していただくと 30 分もしないうちに届けられた。

会場は熱気が溢れ出席者は名前が記された円卓を囲んで、互いの顔と胸の名札を見比べながら記憶を辿るのに夢中だ。総勢 128。無くて七癖。幹事の労苦は察するに余りある。7 組出席者は 12 名。開宴の挨拶の後、酒肴が供され、出席者紹介が続く中、交歓は全テーブルで極限に達し、顔ぶれの変遷は目まぐるしい。50 年の星霜は各々の心身を彫琢し、風貌を変え、おそらくは虚実のあわいを語らせる。

瞬く間に時は過ぎ、締めは校歌斉唱。不覚にも満腔のノスタルジーと些かのアナクロを禁じ得ない。十代の時空からの隔たりをほろ苦く噛みしめる。

二次会は近くのスナックであり、全員にプラス夜の部のみ出番の宮崎、それに 10 組から 2 名が参加した。多分 9 時ごろ散会。幹事の小山田には感謝の言葉もない。

何はともあれ、失せ物が戻る上田はイー所だ。

【写真 1: 7 組全員集合、後列左端が筆者】



【写真 2: 7 組出席者の寄せ書き】

